

令和元年6月30日現在

機関番号：43807

研究種目：基盤研究(C)（特設分野研究）

研究期間：2015～2018

課題番号：15KT0097

研究課題名（和文）健康寿命日本一静岡県で「お達者度」上位地域高齢者の健康要因に関する悉皆調査

研究課題名（英文）Health factors among elderly people in top-class healthy life expectancy

研究代表者

野口 有紀（Noguchi, Yuki）

静岡県立大学短期大学部・短期大学部・准教授

研究者番号：30612618

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：健康寿命の指標のひとつである「お達者度」上位地域と下位地域によって「お達者度」の違いがあり、地域での格差が見られた。「お達者度」上位地域居住高齢者の生活習慣、社会参加などに着眼した調査を実施し、どのような要因が健康状態に影響を与えているか明らかにすることを本研究の目的とした。健康寿命の長い地域の健康高齢者2,000人を無作為抽出し、郵送法にて自己記入式質問紙調査を実施した。要介護リスクである認知機能の低下、転倒経験、うつ状態と、1日の歩行時間と近所づきあいとの関連がある可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

健康格差が生じている地域コミュニティを対象とした本研究は、健康格差の縮小・社会環境改善の貴重な示唆を与える。今後、超高齢社会の進んだわが国では、高齢化率の高いコミュニティが全国各地域に点在することが予想されるため、地域コミュニティを単位とした健康支援は早急に必要である。健康寿命延伸の観点からも本研究の意義は非常に大きいと考えられる。

研究成果の概要（英文）：Healthy life expectancy is important headline measures of the health status of the population. It showed a dramatic difference in healthy life expectancy by regions. The objective of this study is to examine the lifestyle and the social support on health factors during the healthy life expectancy among elderly people. The subjects were 2,000 among elderly people living in top-class healthy life expectancy, Japan. The subjects completed the self-administered questionnaire consisting of their self-reported education, income, health status, smoking, drinking, lifestyle, health behaviors, social support. The result suggested that poor walking time and communication among neighbors could have some impact on the cognitive function decline, falling experience, depression state.

研究分野：公衆衛生

キーワード：健康寿命 認知機能 転倒 うつ 歩行時間 近所づきあい

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

健康寿命の延伸と健康格差の縮小は、健康日本 21 (第二次) の中心課題である。日常生活に制限のない期間の延伸は、個人の生活の質の向上につながる。平均寿命が延びるにしたいが、医療費や介護費等が増大することへの影響が懸念される。わが国の健康寿命が長い地域住民は、居住地の温暖な気候や医療保健体制の充実に加え、栄養、運動、休養、喫煙、飲酒、歯・口腔の健康などの生活習慣が良いことが考えられている。また、社会経済的地位 (SES) が良い、社会参加・ソーシャルキャピタル (社会資本) がある、気持ちが前向きであることなどが関連している報告がある。しかしながら、健康寿命に寄与する要因が個別に生じているものなのか、地域特有のものなのか、その他の要因は関連していないのかなど、未解明な部分が多い。

平成 22 年健康寿命 (厚生労働省算出) において、静岡県は男性は全国 2 位 (71.68 歳)、女性は全国 1 位 (75.32 歳) であった。静岡県が独自に算出した健康寿命男女合計では、全国 1 位となり、静岡県は健康寿命日本一の都道府県となった。平成 23 年静岡県内市町別「お達者度 (65 歳以降で要介護度 2~5 でない状態の期間)」では、静岡県西部地区中心に位置する A 町の男性は県内 1 位、女性は県内第 4 位であった。静岡県内においても健康寿命の指標のひとつである「お達者度」上位地域の A 町と下位地域によって「お達者度」の違いがあり、地域での格差が見られた。

2. 研究の目的

健康寿命の長い高齢者が居住している地域である静岡県 A 町で健康の関連要因について調査をすることは、健康寿命に関する要因の解明のみならず健康格差の縮小という観点から非常に重要である。本研究は、健康寿命日本一の静岡県で、「お達者度」上位地域居住高齢者の生活習慣、社会参加などに着眼した調査を実施し、どのような要因が健康状態に影響を与えているかを明らかにし、健康寿命の延伸の要因を検証する。

3. 研究の方法

調査協力の得られた静岡県 A 町を通じ、2016 年 10 月に調査を実施した。本調査は日本老年学的評価研究 (JAGES プロジェクト) 調査と共同し調査を実施した。研究計画では調査対象者は静岡県の「お達者度」上位地域である A 町に居住している全高齢者を対象としていたが、申請時に計上した研究費より交付決定費が減額となったため、A 町在住の健康高齢者 2,000 人を無作為抽出し、郵送法にて自己記入式質問紙調査を実施した。1,510 人の健康高齢者より回答を得た (回収率 75.5%)。調査対象者の自己記入式質問用紙の未回収者には、督促状を送付し回収率アップに努めた。

調査項目は、先行研究で報告があった健康寿命に関連のある項目である気候、医療保健体制の充実、栄養、運動、休養、喫煙、飲酒、歯・口腔の健康などの生活習慣、社会経済的地位 (SES)、社会参加・ソーシャルキャピタル (社会資本)、気持ちの前向きさなどとした。

欠損値を除き²乗検定実施後、高血圧、認知機能低下、転倒経験、うつ状態の各項目のあり群となし群を目的変数、1 日の歩行時間、BMI、喫煙、飲酒、社会的支援を説明変数とし、性、年齢、等価所得、教育歴を調整した上でロジスティック回帰分析を行った。

本研究は、静岡県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て、実施した (承認番号 28-29)。

4. 研究成果

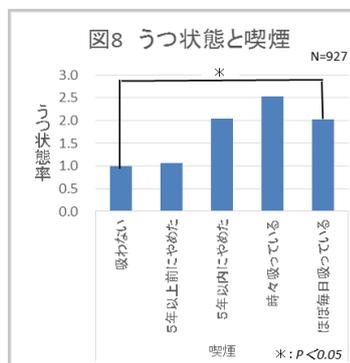
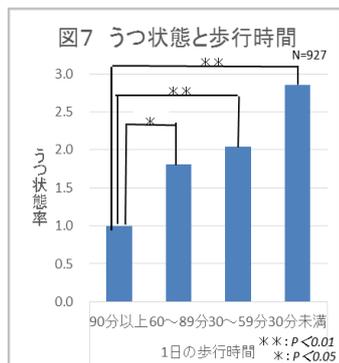
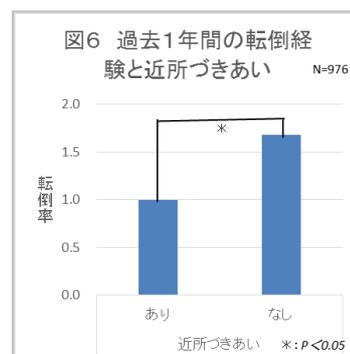
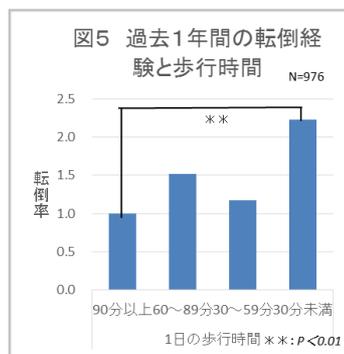
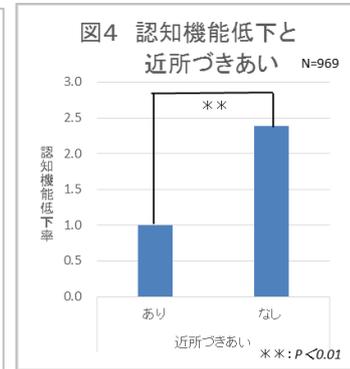
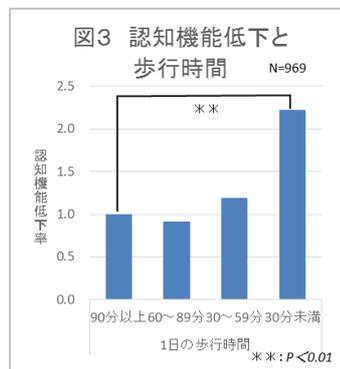
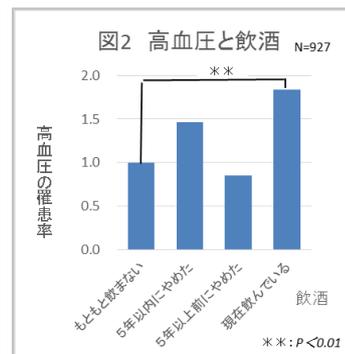
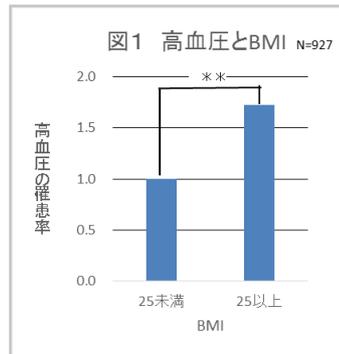
調査対象者の平均年齢は 75.56 ± 7.26 歳、性別の割合は男性 46%、女性 54%であった。高血圧と回答した者は 43.6%、基本チェックリストによる判定で認知機能の低下者は 28.2%、過去 1 年以内に転倒の経験があると回答した者は 21.8%、基本チェックリストによる判定でうつ病の可能性のある者 24.2%であった。1 日の歩行時間が 30 分未満の者は 27.3%、30-59 分の者は 31.1%、60-89 分の者は 16.3%、90 分以上の者は 25.3%であった。BMI が 18.5 未満の者は 13.9%、18.5-25.0 未満の者は 72.2%、25.0 以上の者 13.9%であった。喫煙者は 8.1%、飲酒者は 33.6%、近所づきあいがある者は 89.1%であった。

ロジスティック回帰分析では、高血圧と回答した群はなしと回答した群と比較し、BMI25 以上者のオッズ比 1.72 (95%信頼区間:1.16-2.55) 飲酒者のオッズ比 1.83 (95%信頼区間 [CI]:1.29-2.60) となり、有意に高かった (図 1、図 2)。

基本チェックリストによる判定で認知機能の低下者群は低下者でない群と比較し、1 日の歩行時間が 30 分未満者のオッズ比 2.22 (95%信頼区間 [CI]:1.47-3.35) 近所づきあいが無い者のオッズ比 2.38 (95%信頼区間 [CI]:1.52-3.73) となり、有意に高かった (図 3、図 4)。

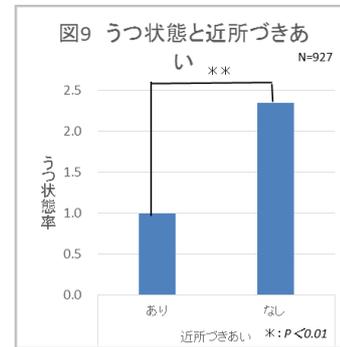
過去 1 年以内に転倒経験がある群はない群と比較し、1 日の歩行時間が 30 分未満者のオッズ比 2.23 (95%信頼区間 [CI]:1.41-3.51) 近所づきあいが無い者のオッズ比 1.67 (95%信頼区間 [CI]:1.02-2.75) となり、有意に高かった (図 5、図 6)。

基本チェックリストによる判定でうつ病の可能性のある群はない群と比較し、1 日の歩行時間が 30 分未満者のオッズ比 2.85 (95%信頼区間 [CI]:1.76-4.61) 喫煙者のオッズ比 2.02 (95%信頼区間 [CI]:1.05-3.89) 近所づきあいが無い者のオッズ比 2.34



(95%信頼区間 [CI] :1.44-3.82) となり、有意に高かった(図7、図8、図9)

健康寿命の長い地域に居住している健康高齢者の要介護リスクとなる認知機能の低下、転倒経験、うつ状態と、1日の歩行時間や近所づきあいとの関連がある可能性が示された。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

野口有紀、秋山穂奈美、鈴木桂子、仲井雪絵、成人女性における主観的健康感と緑茶摂取の関連、静岡県立大学短期大学部紀要、査読無、Vol32-W-5、2018、pp1-10

〔学会発表〕(計1件)

野口有紀、秋山穂奈美、鈴木桂子、仲井雪絵、成人女性における主観的健康感と緑茶摂取の関連、第61回東海口腔衛生学会、2018

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：吉田直樹

ローマ字氏名：Yoshida Naoki

所属研究機関名：静岡県立大学短期大学部

部局名：その他の部局

職名：教授

研究者番号(8桁)：90270917

研究分担者氏名：小坂 健
ローマ字氏名：Osaka Ken
所属研究機関名：東北大学
部局名：歯学研究科（研究院）
職名：教授
研究者番号（8桁）：60300935

(2)研究協力者

研究協力者氏名：仲井雪絵
ローマ字氏名：Nakai Yukie

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。